

優秀賞

たくさんの親切

山口県 由宇中学校 一年 竹本 圭佑

私は、「発達障害」を抱えています。障害をもつと「普通の人ではない」という目で見られたり、人から差別を受けたり、楽しくないことをたくさん経験します。

しかし、その中で、今の自分があるのは、たくさんの人たちの小さな小さな親切を受けて、支えられてきたからです。私が今まで受けてきた「小さな親切」について、紹介していきたいと思います。

まず一つ目は、「友達からの親切」です。私の住んでいた家のまわりには、同じぐらいの年頃の子どもがたくさん暮らしていました。由宇町に引っ越してきたばかりのときには、誰も知り合いはいませんでした。新学期が始まり、「友達が何人できるのか」と、障害のこともあり心配していました。しかし、予想以上に多くの友達ができました。

放課後、家でのおんびりしていると、「ピンポン」と家のチャイムが鳴り、毎日のように友達遊びにきてくれました。私は、今でも最初に家のチャイムが鳴ったときのことを忘れません。

大げさなような気もするかもしれませんが、私が前に暮らしていた地域では、学校の昼休みや授業の間の休憩時間しか、友達と遊んだ経験がありません。学校以外は、家で家族としか過ごせず、非常に寂しい思いをしました。由宇町でできた友達から受けた親切ややさしさは、本当にすごいことだと、私は思います。

二つ目は、今まで関わってくれた「先生からの親切」です。私は発達障害を抱えていたために、転校前の小学校では、遊ぶとき以外は、ほとんど授業を受けて学ぶことができませんでした。そのときの学校のノートは、みんな白紙でした。何も書かれていません。

それは、発達障害のために、みんなと教室で勉強しようとしても、すぐに「わーわーわー」となってしまう、席についていることができなかつたからです。

そのときには、同級生といっしょに学校で授業を受けられずに、いつも別の部屋で先生といっしょにいました。あのとき、先生たちが私を怒ることを我慢して、ていねいに勉強を教えてくれたことに、とても感謝しています。私もこのときの先生方のように、どのような相手ともしっかりと向き合い、怒ったりせずにやさしく親切にしていきたいです。

私は、親切とはどのようなことをしたとしても、受けた人が親切だと思えば、それは親切なのではないかと思います。たとえ親切をした人が、親切をしたことに気づいていなくてもです。そのときに大切なのは、人への少しの「思いやり」や、誰かの力になりたいという「想い」だと思います。

私は、今までいろいろな人に受けてきた親切を大切に、ぜひ、ほかの人に返していきたいです。そうすることで、多くの人々の親切の積み重ねが、たくさんの人々を救ったり救われたりする、障害をもつ人ももたない人も関係ない世の中につながっていくのではないかと思います。